

築川ダムができれば、安全か？

今のままでは不安が残る東中野・東安庭の堤防

台風6号と新潟洪水から学ぶもの

一昨年、台風6号の豪雨によって築川と北上川の合流地点付近で堤防が浸食され、一部崩れたのは記憶に新しい事だと思います。県の築川ダム事業計画の資料によればこの地点の流下能力は毎秒約800トンあるはずだったのに、毎秒335トンの水量で崩れかけてしまったのです。堤防はその後修復されましたが、今のままで本当に大丈夫なのでしょう



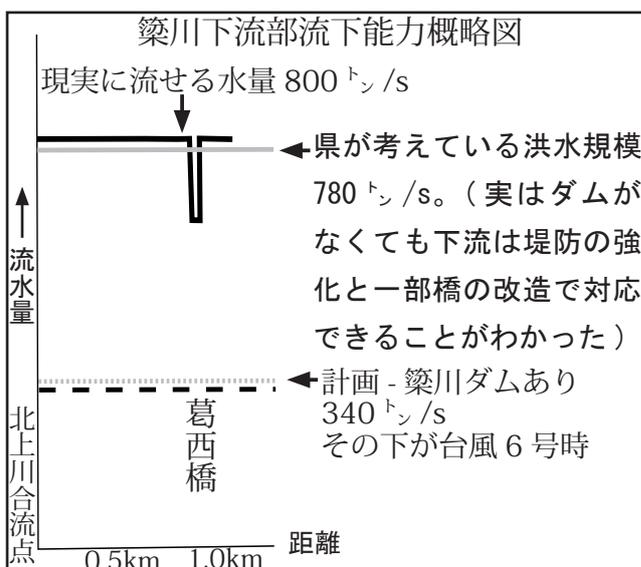
台風6号。築川ダムができて流れる水量以下で堤防は侵食された。

新潟豪雨、ダムを越えて洪水

去る7月13日から断続的に降り続いた新潟・福島豪雨によって、600億円を超える被害をもたらされ、14人の方が尊い命を亡くされました。これだけ大きな水害になってしまったのは、堤防の5カ所が決壊し、9カ所が溢水（水が堤防を越えて流れ出すこと）したからです。築川の洪水対策を考える上で、一番重要なのは東中野・東安庭の堤防の決壊・溢水を防ぐことではないでしょうか。

侵食されず壊れない堤防に！

予測している以上に水が出てしまう事があります。ダムに溜めきれずあふれて一気に洪水が流れ出すことを超過洪水と言います。国もこの超過洪水に対する対策の必要性を1987年から言い始めています。しかし築川



ダム計画には超過洪水対策が盛り込まれていないのです。岩手県の河川担当者も、壊れない堤防にするなどの必要性を認めているのに具体化していません。(裏に続く)



盛岡市議会議員

いせ志穂 (市民会議)

事務所 盛岡市青山3-29-4 〒020-0133

電話・FAX 645-8510

自宅 盛岡市前九年1-9-26 〒020-0127

電話 646-5396

<http://www.nnet.ne.jp/~ise/> E-mail: ise@nnet.ne.jp

発行 2004. 9. 26

築川の治水で最重要ポイントはこの下流部です。東安庭の堤防が現状のまま放置されているのは危険な事です。

築川の下流部は、流下能力毎秒 800 トンになります。これは県の洪水対策で想定している流量を上回っています。ですから東安庭の堤防を侵食されず、壊れない堤防にしたり右岸を侵食から防止する工事は、むずかしいことではありません。急ぐべきは、築川ダム建設ではなく、下流部の安全性の向上 - 東安庭堤防の強化です。

県や市に要望を

しかし、岩手県や盛岡市は「ダムができれば安全」という幻想をふりまくだけ。

岩手県は超過洪水対策の必要性を一般的に言っているだけで、最新の流下能力の資料すら作成していないようです。

「ダムを造るのにお金を使ってしまったので、もうやれませんか」ということがないように、多くの市民のみなさんと力を合わせて県や市に要望していきたいと思えます。

これからは市民参加のまちづくり

ぜひみなさんから県や市に要望してはいいかがでしょうか。

参考

いせ志穂の盛岡市議会 2004 年 9 月定例会 一般質問より抜粋

(いせ志穂の質問)

- 略 -

1987 年の河川審議会超過洪水対策小委員会による「超過洪水対策および推進方策について」の答申にもありますように、今や超過洪水対策は治水に必要不可欠です。

以上より東安庭の堤防を破堤しない堤防に強化するよう、岩手県に要望していくべきだと考えますが、超過洪水対策の具体案をお示してください。

関連して、災害時の緊急通報についてお聞きします。

新潟豪雨では、避難勧告の遅れが被害の拡大を助長したという声も多数聞かれました。災害時、盛岡市における緊急通報についてお知らせ下さい。また、一人暮らし高齢者や視覚・聴覚しょうがいをお持ちの方々に対しては、どのような方法で行いますか。

- 略 -

(中村下水道部長答弁)

超過洪水についてのお尋ねですが、築川ダムは基本高水流量 780 トンとして治水計画を

立てておまして、それに基づいて堤防・ダムの計画がなされて、堤防についてはほぼ改修を終えてきているという状況の下で、合流点から上の部分の 50m ごとの流量とすることでございますが、今申し上げましたとおり改修につきましては終えているので、特に 50m ごとの解析などについては、しておらないということですが、その超過洪水対策ということにつきまして、ご質問にあります河川審議会の関係でございますが、昭和 62 年に出されている答申だろうと思いますが、これにつきましては神奈川の関係もあつたらうと思いますが、特に意図しているところは大都市地域での大川ということで、スーパー堤防などについて提言しているわけですが、築川の超過洪水にたいしては県では洪水流量の低減をはかるためにダムの整備を行ない、さらに超過洪水に対応しては住民非難の早期対応や綿密な情報提供を行なっていくというふうな対応をしてまいりたいと、伺っています。